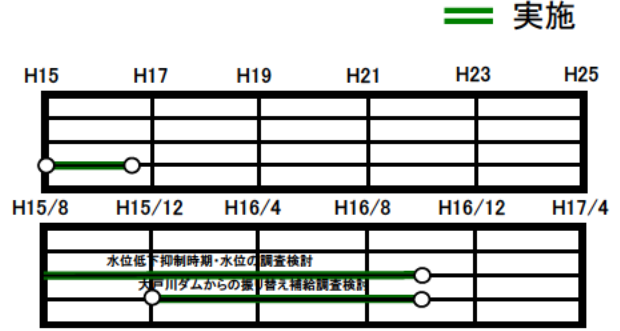


# 琵琶湖水位低下抑制

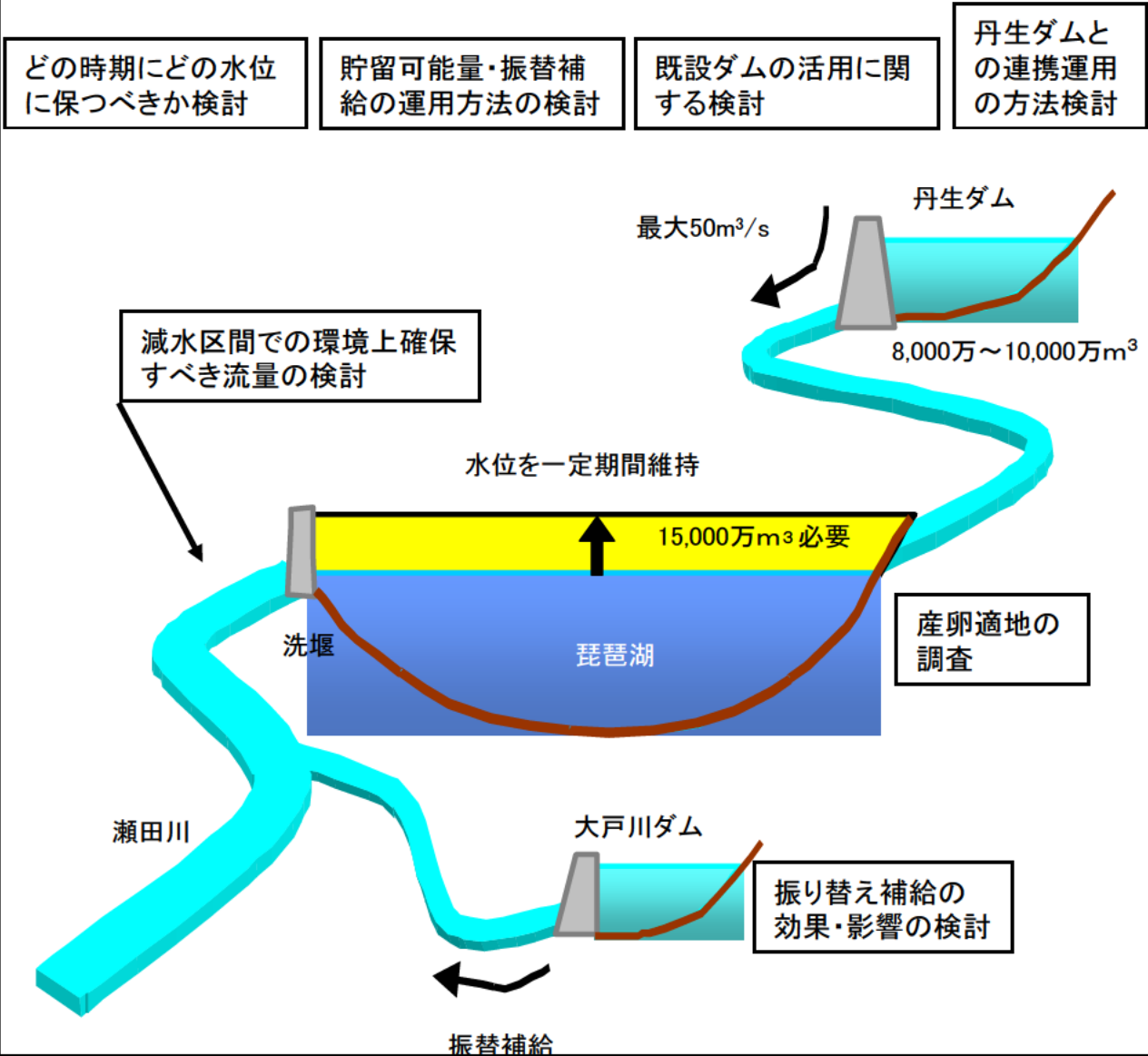
## ●具体的な整備内容

琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響について、さらに詳細な調査・検討を行う。

## ●実施スケジュール

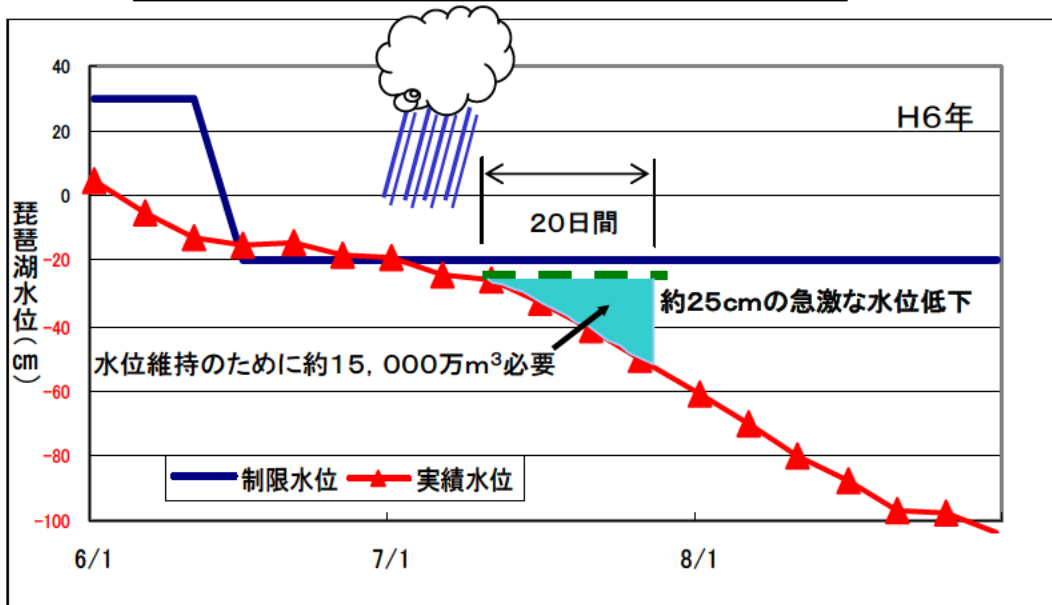


## ●琵琶湖の急速な水位低下の抑制策の調査検討



### ●水位低下抑制のための水量

・H6年には、コイ科魚類の産卵生育期間中の7月において、制限水位移行後に、20日間に約25cmの急激な水位低下が発生し、産卵・ふ化仔魚に影響を及ぼしたと推察される。この場合では、20日間水位を維持するためには、約15,000万m<sup>3</sup>の水量が必要である。



### ●具体的な調査検討内容

1. 水位低下を抑制すべき時期・水位に関する調査検討
  - ・琵琶湖のコイ科魚類の産卵刺激降雨量の調査
  - ・産卵の適地(ヨシ帯の深度ごとの分布面積)の調査
2. 大戸川ダムからの振り替え補給に関する調査検討
  - ・洗堰放流量の振り替えに伴う減水区間での環境上確保すべき流量の検討
  - ・振り替え補給の運用方法(補給時期、補給量)の検討(丹生ダムと連携する場合、大戸川ダム単独の場合)
3. 振り替え補給の効果と自然環境に及ぼす影響に関する調査検討
  - ・振り替え補給の効果の評価項目の検討
  - ・振り替え補給の効果の評価(モニタリング)手法の検討
4. 振り替え補給による効果の代替案の検討
5. 上記に必要な容量の検討

### ●委員会等からの意見(平成17年1月22日)【事業中のダムについての意見書】

・琵琶湖の水位低下の抑制のうち大戸川ダムが主に関係するのは、下流河川への維持用水の補給を通じての長期的な水位低下の抑制であるが、ダムの利水容量からすればその抑制量はきわめて限定的である。丹生ダムの項でも述べたように、琵琶湖の長期的な水位低下の抑制については瀬田川洗堰の操作運用で対応する方法および琵琶湖の制限水位を変更する方法の併用がより効果的である。

### ●進捗状況(平成17年1月22日～12月22日) (平成17年7月21日とりまとめより)

○異常渇水対策

・大戸川ダムに異常渇水対策のための容量を確保すれば、一定の効果は期待できるが、利水対策としての必要性、緊急性、治水対策としての効率性が低下したことから、この目的のためだけに容量の確保は行わないこととする。したがって、振り替え補給効果と影響及びその代替案についての検討は行っていない。